

Japanese Laid-Open Patent Application No. 11-212891

[0078] Note that in the embodiment and variation described above, a script is directly written into an e-mail or a script file is attached to the e-mail. Instead of such methods, it is possible to execute a desired set of commands by pre-registering the names assigned to one or more scripts into the printer 13 and designating the names of the scripts via e-mail. It is also possible to write a script into print data. In this case, when the script appears during the process carried out by the printer 13 for sequentially processing the print data, print settings and remote maintenance execution which are based on the script are to be performed at that point.

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 11-212891

(43)Date of publication of application : 06.08.1999

(51)Int.Cl.

G06F 13/00
 G06F 13/00
 B41J 29/38
 G06F 3/12
 H04L 12/54
 H04L 12/58

(21)Application number : 10-026358

(71)Applicant : FUJI XEROX CO LTD

(22)Date of filing : 26.01.1998

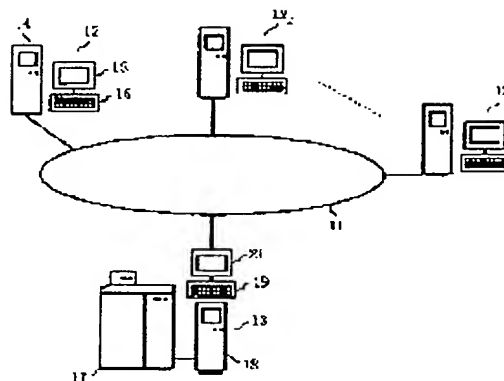
(72)Inventor : MOGI IWAO

(54) PRINTER AND NETWORK SYSTEM

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a printer and a network system, which can set an environment that an electronic mail transmitter-side desires and which do not need to prepare a large quantity of various data on a font or the like on a self-device side.

SOLUTION: First to N-th user nodes 121-12N and the printer 13 are connected on a network 11. The printer 13 receives an electronic mail from the user node 12 requesting printing and extracts/executes a script incorporated in the mail. Thus, printing data and a printing resource are obtained from the electronic mail itself or the other place on the network 11 so as to execute printing. When a fault occurs in the printer 13 and maintenance is required, a system manager incorporates the script showing the place of the program for maintenance into the electronic mail and sends it. Thus, remote maintenance can also be realized.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 22.04.2003

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 04.04.2006

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection] 2006-08954

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection] 08.05.2006

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-212891

(43) 公開日 平成11年(1999) 8月6日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	F I		
G 0 6 F 13/00	3 5 4	G 0 6 F 13/00	3 5 4 D	
	3 5 1		3 5 1 G	
B 4 1 J 29/38		B 4 1 J 29/38	Z	
G 0 6 F 3/12		G 0 6 F 3/12	C	
H 0 4 L 12/54		H 0 4 L 11/20	1 0 1 B	
審査請求 未請求 請求項の数 8 F D (全 15 頁) 最終頁に続く				

(21) 出願番号 特願平10-26358

(22) 出願日 平成10年(1998) 1月26日

(71) 出願人 000005496

富士ゼロックス株式会社

東京都港区赤坂二丁目17番22号

(72) 発明者 茂木 巖

埼玉県岩槻市府内3丁目7番1号 富士ゼ

ロックス株式会社岩槻事業所内

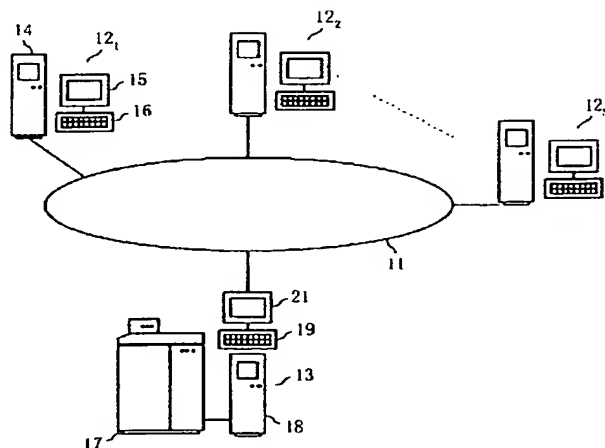
(74) 代理人 弁理士 山内 梅雄

(54) 【発明の名称】 プリンタおよびネットワークシステム

(57) 【要約】

【課題】 電子メール送信者側の希望する環境を設定することができ、しかもフォント等の各種データを自装置側で大量に用意する必要のないプリンタやネットワークシステムを得ること。

【解決手段】 ネットワーク11上には第1～第Nのユーザノード12₁～12_Nとプリンタ13が接続されている。プリンタ13はプリントを依頼するユーザノード12から電子メールを受け取り、これに組み込まれたスクリプトを抽出して実行することで、印刷データや印刷資源を電子メール自身あるいはネットワーク11上の他の場所から取得して、印刷を行う。プリンタ13に障害が発生してメンテナンスを行う必要がある場合には、システム管理者がそのためのプログラムの所在を示すスクリプトを電子メールに組み込んで送ることで、リモートメンテナンスを実現することも可能である。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 ネットワークを介して電子メールを受信する電子メール受信手段と、

この電子メール受信手段の受信した電子メールにプリント実行用のスクリプトが存在する場合にこれを抽出するスクリプト抽出手段と、

このスクリプトを実行してプリントを行うスクリプト実行手段とを具備することを特徴とするプリンタ。

【請求項2】 ネットワークを介して電子メールを受信する電子メール受信手段と、

この電子メール受信手段によって受信された未処理の電子メールを処理のために1つずつ時系列的に選択していく電子メール順次選択手段と、

この電子メール順次選択手段が選択した電子メールにプリント実行用のスクリプトが存在する場合にこれを抽出するスクリプト抽出手段と、

このスクリプトを実行してプリントを行うスクリプト実行手段とを具備することを特徴とするプリンタ。

【請求項3】 ネットワークを介して電子メールを受信する電子メール受信手段と、

この電子メール受信手段によって受信された未処理の電子メールを処理のために1つずつ時系列的に選択していく電子メール順次選択手段と、

プリンタのプリント実行用のスクリプトを格納したスクリプト格納手段と、

前記電子メール順次選択手段が選択した電子メールに前記スクリプト格納手段に格納された特定のスクリプトを指定するデータが存在する場合にこれを抽出するスクリプト対応データ抽出手段と、

このスクリプト対応データ抽出手段によって抽出されたデータに対応するスクリプトを実行してプリントを行うスクリプト実行手段とを具備することを特徴とするプリンタ。

【請求項4】 ネットワークを介して電子メールを受信する電子メール受信手段と、

この電子メール受信手段によって受信された未処理の電子メールを処理のために1つずつ時系列的に選択していく電子メール順次選択手段と、

この電子メール順次選択手段が選択した電子メールにプリンタのメンテナンスを行うためのスクリプトが存在する場合にこれを抽出するスクリプト抽出手段と、

この電子メールがスクリプトを実行する正当な権限を有する者からのメールであるか否かを判別する権限判別手段と、

この権限判別手段が正当な権限を有する者からの電子メールであると判別したとき前記スクリプト抽出手段によって抽出されたスクリプトを自装置のメンテナンスのために実行するスクリプト実行手段とを具備することを特徴とするプリンタ。

【請求項5】 ネットワークを構成する情報処理装置の

メンテナンスを指示するスクリプトを電子メールに組み込んでメンテナンスの対象となる装置に送出するシステム管理者側電子メール送出手段と、

電子メールを受信する電子メール受信手段と、この電子メール受信手段によって受信した電子メールからメンテナンスを指示するスクリプトが存在する場合にこれを抽出するスクリプト抽出手段と、この電子メールがスクリプトを実行する正当な権限を有する者からのメールであるか否かを判別する権限判別手段と、この権限判別手段が正当な権限を有する者からの電子メールであると判別したとき前記スクリプト抽出手段によって抽出されたスクリプトを自装置のメンテナンスのために実行するスクリプト実行手段とを備えた情報処理装置とを具備することを特徴とするネットワークシステム。

【請求項6】 前記スクリプト実行手段は、スクリプトに取得すべき印刷資源の所在が記述されているときその印刷資源を取得してプリントを実行することを特徴とする請求項1～請求項3記載のプリンタ。

【請求項7】 前記スクリプト実行手段は、スクリプトに印刷のための設定に関する情報が記述されているときその設定を行ってプリントを実行することを特徴とする請求項1～請求項3記載のプリンタ。

【請求項8】 前記権限判別手段は、自装置に予め記憶しておいたメンテナンスを行う権限者のパスワードと電子メールで送られてきたパスワードを比較することによって正当な権限を有する者からのメールであることを判別することを特徴とする請求項5記載のネットワークシステム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明はネットワークに接続されたプリンタで印刷データをプリントするためのプリンタおよびこのようなプリンタを含めたネットワークシステムに係わり、特に電子メールを使用して印刷データをプリントするプリンタおよびこのプリンタやその他の情報処理装置に電子メールを送信してプリントやその他の処理を行わせるネットワークシステムに関する。

【0002】

【従来の技術】一般に各種の印刷資源を備えたプリンタを使用して印刷データの印刷を行う場合には、そのプリンタがどのような印刷資源を選択して印刷を行うべきかを指定するために印刷の前に印刷環境の設定を行う必要がある。プリンタがネットワークに接続されている場合には、プリンタまで出向いて、操作パネルを直接操作することで印刷に使用するフォントを指定したり書式を設定するといった印刷環境の設定を行うことができる他に、ネットワークに接続されたコンピュータ等の情報処理装置から該当のプリンタにリモートログインすることで印刷環境の設定を行うことも可能である。ここで、リモートログインを行う情報処理装置は、必ずしも印刷デ

ータをプリンタに送ったその装置自体に限られるものではない。

【0003】電子メールを受信した受信者がその電子メールを印刷データとしてネットワーク上のプリンタに送信して印刷を行わせる場合も同様である。

【0004】ネットワークを使用したネットワークシステムでは、当然ながらネットワークに共有されるプリンタに対して、ネットワーク上の複数の者が印刷を要求することができる。また、ネットワークによっても相違するが、共有されるプリンタの印刷環境の設定や変更を誰でも行えるようなシステムも存在するし、ある一定以上の権限を有する者あるいは電子メールを送付した当人がプリンタの印刷環境の設定や変更を行うことができる場合もある。従って、ネットワークに接続されてプリンタから見ると、複数の者から時間を異にしてそれぞれ印刷データの依頼を受ける一方で、印刷環境についても適宜その設定変更をさせられることになる。

【0005】この結果として、例えばAというユーザが自分の受信した電子メールの印刷をプリンタに依頼してその印刷が実行される前に、Bというユーザが自分の電子メールの印刷を依頼してきて印刷環境の変更をその電子メールの印刷データに合わせて変更するような場合が発生しうる。このような場合が発生すると、Aというユーザの印刷データは、Bというユーザの印刷データのために設定された印刷環境で印刷されてしまい、当初予想していた印刷内容と相違する印刷物を得ることになるという不具合が発生する。

【0006】また、AというユーザとBというユーザがそれぞれ異なった印刷環境の設定を時間的に同時に要求した場合には、これらの印刷環境についての設定要求が競合し、この結果としていずれか一方の者にとっては想定しないような印刷環境で電子メールの印刷が行われてしまうことになるという不都合もあった。また、プリンタによっては印刷環境の設定そのものが固定化されており、ユーザが他の印刷環境を望んでもそれをユーザ側で実現できないというようなものもあった。

【0007】更に印刷環境の設定を行うことのできるプリンタでは、ユーザの希望するフォントや電子的なフォーム等の印刷資源のすべてをプリンタ側の記憶装置に格納しておいて、どのような印刷環境が設定されても印刷を行うことができるようにしているものがある。このようなプリンタでは、多種多様な印刷資源を記憶装置に格納しておく必要があり、記憶装置の記憶容量が大きくなると必要になるという問題がある。

【0008】

【発明が解決しようとする課題】そこで、印刷データを格納した電子メール自体にフォントやフォーム等のその電子メールの印刷に使用する印刷資源をいっしょに格納する方法が提案されている。これにより、プリンタ側の記憶装置の記憶容量を必要以上に大きくする必要がなく

なり、また他の電子メールの印刷環境の変更によって指定したフォームやフォント以外のフォームやフォントが使用されるといった不都合が解消される。しかしながら、電子メールは通常のファイルの転送と異なり、多量のデータを転送することを前提としておらず、電子メール自体に、自身の印刷に使用するフォーム等を含めて送信することはできない。

【0009】そこで例えば特開平06-077994号公報では、電子メールを受信したユーザがこの電子メールをプリントサーバに転送することで問題の解決を図っている。すなわちこの公報に開示されたネットワーク対応プリント処理システムでは、クライアントからプリントのためのパラメータとプリントすべきドキュメントを含む電子メールを受信している。そして、電子メール内のパラメータに基づいてドキュメントのプリントを所定のプリントサーバに渡して、プリンタに対するプリント出力を依頼するようになっている。プリントサーバは、受け取ったドキュメントを指定されたパラメータに従って、プリンタに対してプリントアウトさせる。なお、パラメータはパラメータファイルに格納されているが、このファイル中にはドキュメントの名前、プリント枚数およびドキュメントのフォーマットが記されている。

【0010】この提案のネットワーク対応プリント処理システムでは、電子メールを受信したユーザがこれをプリントサーバに転送してプリントを依頼する形式となり、システムが複雑化する。

【0011】また、一般に従来のネットワークシステムでは、プリンタに障害が発生したときにネットワークの管理者がそのプリンタまで直接出向いてメンテナンスを行う必要があり、ネットワークの管理者にかなりの負担をかけるという問題があった。

【0012】そこで本発明の目的は、電子メール送信者側の希望する環境を設定することができ、しかもフォント等の各種データを自装置側で大量に用意する必要のないプリンタを提供することにある。

【0013】本発明の他の目的は、電子メール自体のデータ量を過度に増加させることなくネットワークに接続されたプリンタに電子メール送信者側の希望する環境でプリントを行わせることのできるネットワークシステムを提供することにある。

【0014】本発明の更に他の目的は、電子メールを使用してシステムのリモートメンテナンスを可能にするネットワークシステムを提供することにある。

【0015】

【課題を解決するための手段】請求項1記載の発明では、(イ)ネットワークを介して電子メールを受信する電子メール受信手段と、(ロ)この電子メール受信手段の受信した電子メールにプリント実行用のスクリプトが存在する場合にこれを抽出するスクリプト抽出手段と、(ハ)このスクリプトを実行してプリントを行うスクリ

プト実行手段とをプリンタに具備させる。

【0016】すなわち請求項1記載の発明では、プリント実行用のスクリプトが電子メールでプリンタ側に送出され、プリンタ側ではこのスクリプトを抽出して実行しながらプリントを行うことで、必要な印刷環境を満たすようにしている。

【0017】請求項2記載の発明では、(イ)ネットワークを介して電子メールを受信する電子メール受信手段と、(ロ)この電子メール受信手段によって受信された未処理の電子メールを処理のために1つずつ時系列的に選択していく電子メール順次選択手段と、(ハ)この電子メール順次選択手段が選択した電子メールにプリント実行用のスクリプトが存在する場合にこれを抽出するスクリプト抽出手段と、(ニ)このスクリプトを実行してプリントを行うスクリプト実行手段とをプリンタに具備させる。

【0018】すなわち請求項2記載の発明では、プリント実行用のスクリプトが電子メールに組み込まれてプリンタ側に受信されると、プリンタ側では受信した電子メールを受信順あるいは優先順位を加味した順番で一つずつ時系列で処理し、これらにプリント実行用のスクリプトが存在する場合にはスクリプトを実行して必要な印刷環境を満たしながらプリントを行うようにしている。したがって、複数の印刷依頼が競合したとしても、電子メールの処理順に印刷環境が設定されるので、常に所望の印刷環境を得ることができる。

【0019】請求項3記載の発明では、(イ)ネットワークを介して電子メールを受信する電子メール受信手段と、(ロ)この電子メール受信手段によって受信された未処理の電子メールを処理のために1つずつ時系列的に選択していく電子メール順次選択手段と、(ハ)プリンタのプリント実行用のスクリプトを格納したスクリプト格納手段と、(ニ)電子メール順次選択手段が選択した電子メールにスクリプト格納手段に格納された特定のスクリプトを指定するデータが存在する場合にこれを抽出するスクリプト対応データ抽出手段と、(ホ)このスクリプト対応データ抽出手段によって抽出されたデータに対応するスクリプトを実行してプリントを行うスクリプト実行手段とをプリンタに具備させる。

【0020】すなわち請求項3記載の発明では、電子メールがプリンタ側に受信されると、プリンタ側では受信した電子メールを受信順あるいは優先順位を加味した順番で一つずつ時系列で処理する。この請求項3記載の発明に係わるプリンタは、予めスクリプトを格納したスクリプト格納手段を備えており、電子メールで特定のスクリプトが指定されると、その指定されたスクリプトを実行して必要な印刷環境を満たしながらプリントを行うようにしている。したがって、複数の印刷依頼が競合したとしても、電子メールの処理順に印刷環境が設定されるので、常に所望の印刷環境を得ることができる。しか

も、電子メール自体にスクリプトを組み込む必要がないので、メールのデータ量を低減することができる。

【0021】請求項4記載の発明では、(イ)ネットワークを介して電子メールを受信する電子メール受信手段と、(ロ)この電子メール受信手段によって受信された未処理の電子メールを処理のために1つずつ時系列的に選択していく電子メール順次選択手段と、(ハ)この電子メール順次選択手段が選択した電子メールにプリンタのメンテナンスを行うためのスクリプトが存在する場合にこれを抽出するスクリプト抽出手段と、(ニ)この電子メールがスクリプトを実行する正当な権限を有する者からのメールであるか否かを判別する権限判別手段と、(ホ)この権限判別手段が正当な権限を有する者からの電子メールであると判別したときスクリプト抽出手段によって抽出されたスクリプトを自装置のメンテナンスのために実行するスクリプト実行手段とをプリンタに具備させる。

【0022】すなわち請求項4記載の発明では、電子メールがプリンタ側に受信されると、プリンタ側では受信した電子メールを受信順あるいは優先順位を加味した順番で一つずつ時系列で処理する。そして、選択した電子メールにプリンタのメンテナンスを行うためのスクリプトが存在する場合にはこれを抽出し、またその電子メールの送信者がメンテナンスの権限を有する者であるかどうかを例えばパスワードによってチェックする。この結果、メンテナンスの権限を有する者からのスクリプトが電子メールで送られてきたと判断された場合には、抽出されたスクリプトを自装置のメンテナンスのために実行することで、リモートメンテナンスを実現させるようにしている。

【0023】請求項5記載の発明では、(イ)ネットワークを構成する情報処理装置のメンテナンスを指示するスクリプトを電子メールに組み込んでメンテナンスの対象となる装置に送出するシステム管理者側電子メール送出手段と、(ロ)電子メールを受信する電子メール受信手段と、この電子メール受信手段によって受信した電子メールからメンテナンスを指示するスクリプトが存在する場合にこれを抽出するスクリプト抽出手段と、この電子メールがスクリプトを実行する正当な権限を有する者からのメールであるか否かを判別する権限判別手段と、この権限判別手段が正当な権限を有する者からの電子メールであると判別したときスクリプト抽出手段によって抽出されたスクリプトを自装置のメンテナンスのために実行するスクリプト実行手段とを備えた情報処理装置とをネットワークシステムに具備させる。

【0024】すなわち請求項5記載の発明では、システム管理者側電子メール送出手段が情報処理装置のメンテナンスを指示するスクリプトを電子メールに組み込んでメンテナンスの対象となる装置に送出し、該当する情報処理装置側ではメンテナンスを指示するスクリプトを抽

出すると共に、このスクリプトの組み込まれた電子メールが正当な権限を有する者からのメールであるか否かを判別し、正当な権限を有する者からの電子メールである場合には抽出されたスクリプトを自装置のメンテナンスのために実行するようにして、リモートメンテナンスを実現している。

【0025】請求項6記載の発明では、請求項1～請求項3記載のプリンタでスクリプト実行手段は、スクリプトに取得すべき印刷資源の所在が記述されているときその印刷資源を取得してプリントを実行することを特徴としている。

【0026】すなわち請求項6記載の発明では、電子メールに印刷資源を組み込んでプリンタに送信するのではなく、プリンタ側に取得すべき印刷資源の所在を知らせてその印刷資源を取得することを指示することで、プリンタに印刷資源を自分で取得させるようにしている。これにより、電子メールで送信するデータ量を大幅に低減させることができる。印刷資源のみでなく、例えば印刷データ自体をプリンタがネットワーク上から取り出すことも同様に可能である。

【0027】請求項7記載の発明では、請求項1～請求項3記載のプリンタでスクリプト実行手段は、スクリプトに印刷のための設定に関する情報が記述されているときその設定を行ってプリントを実行することを特徴としている。

【0028】すなわち請求項7記載の発明では、プリンタから排出される用紙の向きや1枚の用紙に何ページ分のデータをプリントするかといった印刷のための設定に関する情報を印刷コンフィグレーションの設定で行う場合に、この印刷コンフィグレーションの設定をスクリプトで記述することになっている。これにより、このような印刷のための各種設定を印刷データと共に電子メールで行うことができる。

【0029】請求項8記載の発明では、請求項5記載のネットワークシステムで権限判別手段は、自装置に予め記憶しておいたメンテナンスを行う権限者のパスワードと電子メールで送られてきたパスワードを比較することによって正当な権限を有する者からのメールであることを判別することを特徴としている。

【0030】すなわち請求項8記載の発明では、リモートメンテナンスを行う際の管理者の権限レベルの確認を、自装置に予め記憶しておいたパスワードと電子メールで送られてきたパスワードを比較することで実現するようにしている。

【0031】

【発明の実施の形態】

【0032】

【実施例】以下実施例につき本発明を詳細に説明する。

【0033】図1は本発明の一実施例におけるプリンタを使用したネットワークシステムの概略の構成を表わし

たものである。このネットワークシステムは、例えばイーサネット等のネットワーク11と、このネットワーク11に接続された第1～第Nのユーザノード12₁～12_Nと、同じくネットワーク11に接続されたプリンタ13とによって構成されている。もちろん、ネットワーク11上には必要に応じて更に他の機器が接続されることは自由である。

【0034】本実施例で第1～第Nのユーザノード12₁～12_Nは、それぞれパーソナルコンピュータ本体14と、モニタ（ディスプレイ装置）15およびキーボード16から構成されている。図示しないがキーボード16にはポインティングデバイスとしてのマウスが接続されている。プリンタ13は、印字部としてのレーザプリンタ17と、ネットワーク11を構成するケーブルに接続された制御部18を備えている。制御部18には、このプリンタ13を直接操作するためのキーボード19や操作に関するデータ等の所定の情報を視覚的に表示するためのディスプレイ21が付属している。

【0035】図2は、第1のユーザノードの構成を表わしたものである。第1のユーザノード12₁のパーソナルコンピュータ本体14はCPU（中央処理装置）31を備えている。CPU31はデータバス等のバス32を介して各部と接続されている。このうちROM（リード・オンリ・メモリ）33は、パーソナルコンピュータとしての基本的な制御手順を格納したメモリである。作業用メモリ34は、第1のユーザノード12₁が各種制御を行う際のデータあるいはプログラムを一時的に格納するためのメモリであり、通常はRAM（ランダム・アクセス・メモリ）によって構成されている。入力回路35はデータの入力のための回路であり、マウス36を接続したキーボード16が接続されている。磁気ディスクドライバ37は、磁気ディスク38に対するデータの入出力を行うための回路である。磁気ディスク38には、基本的なオペレーションシステム（OS）の他に、第1のユーザノード12₁としての機能を果たすためのアプリケーションプログラムが格納されている。また、必要に応じて各種のデータを格納するようになっている。

【0036】フロッピディスク（FD）ドライバ39は、図示しないフロッピディスクをパーソナルコンピュータ本体14にセットした際にこれに対してデータの入出力を行うためのドライバ回路である。通信制御回路41は、図1に示したネットワーク11と接続するための回路である。表示制御回路42はモニタ15に各種データを視覚的に表示するためのドライバ回路である。なお、図1に示した第2～第Nのユーザノード12₂～12_Nも第1のユーザノード12₁と基本的に同一の回路構成となっているので、これらの回路の図示は省略する。

【0037】図3は、プリンタの構成の概要を表わしたものである。プリンタ13の制御部18はCPU51を備えている。CPU51はデータバス等のバス52を介

して各部と接続されている。このうちROM53は、このプリンタ13を制御するためのプログラムや、第1～第Nのユーザノード12₁～12_Nが共通して使用するような基本的なフォントや基本的な電子的なフォーム等の使用頻度の高い印刷資源等の固定的なデータあるいはプログラムを格納している。ROM53に格納する印刷資源等のデータ量が多い場合には、ハードディスク等の他の記憶手段をROM53の代わりに使用したり、これと併用することも可能である。作業用メモリ54は、プリンタ13のプリント処理のために一時的に使用されるデータを格納するためのRAM（ランダム・アクセス・メモリ）から構成されている。作業用メモリ54には一時的に使用されるフォント等の印刷資源も格納されるようになっている。入力回路55は、マウス56を接続したキーボード19と接続されており、ユーザがこのプリンタ13に立ち寄った際のデータの入力や保守用に使

用されるようになっている。
 【0038】通信制御回路57は図1に示したネットワーク11と接続するための回路である。この通信制御回路57を介してプリンタ13は第1～第Nのユーザノード12₁～12_Nから電子メールを受信すると共に、必要な印刷資源をネットワーク11上にアクセスすることになる。表示制御回路58はディスプレイ21に各種データを視覚的に表示するためのドライバ回路である。プリンタインターフェース（I/F）回路59は、レーザプリンタ17との間で印刷のためのデータの入出力を行う回路である。レーザプリンタ17は、図示しないが感光体ドラムあるいは感光体ベルトを備えており、静電潜像を利用して画像を形成する。これについての説明は省略する。なお、図3に示したプリンタ13はパーソナルコンピュータあるいはワークステーションと同様に、フロッピーディスクや光ディスク等の各種の情報源からデータを取得するためのデータ入力手段を備えることは自由である。

【0039】図4は、このプリンタの機能的な構成を表わしたものである。プリンタ13の制御部18は、電子メールを送受信するための電子メール送受信手段61と、電子メール中に埋め込まれたスクリプト（コマンド群）を抽出してその内容を実行するスクリプト実行手段62と、印刷物の排出の仕方や1枚の用紙に複数ページの印刷を行うか等の印刷に関するコンフィグレーションを設定する印刷コンフィグレーション設定手段63と、レーザプリンタ17による印刷の制御を実行する印刷制御手段64と、特別な印刷資源すなわち図3のROM53あるいは図示しないハードディスク等の他の記憶手段に予め用意された以外の印刷資源をネットワーク11上から取得するための印刷資源取得手段65と、電子メール送受信手段61によって受信した電子メール等の手段から印刷データを取得する印刷データ取得手段66を備えている。なお、ネットワーク上の印刷資源は、第1～

第Nのユーザノード12₁～12_N等の情報処理装置のハードディスク71や、フロッピーディスク72や、磁気テープ73あるいは光ディスク74等の各種の記憶媒体に格納されている。

【0040】図5は例えば第1のユーザノードがプリンタに電子メールを送出する処理手順を表わしたものである。第1のユーザノード12₁では、ネットワーク11上の他のユーザから電子メールを受け取り、これを印刷する場合、その電子メールをモニタ15（図2）上で選択し（ステップS101）、更に印刷資源等の所定の印刷環境を予め記述した所望のスクリプトファイルをこの電子メールに添付する（ステップS102）。そして、これを予め設定しておいたプリンタ13の宛先に送信することになる（ステップS103）。スクリプトは、テキスト形式で電子メール中に個別に記述する形式でもよい。ただし、スクリプトの内容は電子メールの本文と明確に区別できる形式にする。

【0041】このようにして電子メールと共にプリンタ13に送信されるスクリプトは、次のような内容の全部または一部を含んだものとなっている。

（a）印刷資源の転送取得指示情報：プリンタ13側に用意されていないと想定される印刷資源の取得先とその印刷資源の内容を示す情報である。

（b）印刷データの転送取得指示情報：電子メールに直接、印刷データを書き込んでプリンタ13に転送するのではその電子メールのデータ量が膨大になるような場合に、印刷データを格納しているネットワーク11上の場所とその印刷データの名称を示す情報である。

（c）印刷コンフィグレーションの設定指示情報：印刷コンフィグレーションの設定を行うための情報である。

（d）印刷結果の出力先指示情報：電子メールによる印刷データの印刷が行われたとき、その結果の出力先を示す情報である。ファイル転送を行う場合もあるし、プリンタ13が結果をその用紙にプリントアウトする場合もある。

【0042】図6は、受信した電子メールに対するプリンタ側の処理の流れを表わしたものである。プリンタ13は、所定の時間間隔でスクリプトに関して未処理の電子メールが存在するかどうかをチェックする（ステップS201）。そして、図3で示した作業用メモリ54に未処理の電子メールが存在した場合には（Y）、これを取り出して、先に取り出した電子メールとも併せて処理を行う電子メールの順番を決定する（ステップS202）。処理する順番は、優先順位が存在する場合にはそれに従うが、優先順位が存在しない場合には受信した順番で電子メールの処理が行われることになる。

【0043】今回処理する電子メールに対しては、そのメール文中にスクリプトの開始を示すスクリプト開始文が存在するか、あるいはスクリプトファイルがあるかどうかをチェックされる（ステップS203）。例えば "

“Start Script”というテキスト文が存在した場合には、スクリプト開始文が存在すると判断される。添付ファイルの拡張子が“スクリプト”を示すものである場合には、スクリプトファイルが存在すると判断される。

【0044】ステップS203でスクリプト開始文もスクリプトファイルも存在しない場合には（N）、その電子メールにスクリプトについて従来と同様の印刷処理を行う。すなわち、プリンタ13について現在設定されている印刷環境でプリンタ自体に備わっている印刷資源を使用して電子メール本文の印刷が行われる。印刷処理が終了したその電子メールは削除される（ステップS204）。その後、図3に示したCPU51はステップS202で順位を決定した電子メールとして未処理の電子メールが存在するかどうかをチェックして（ステップS205）、存在すれば（Y）、ステップS203に戻って次の電子メールについての処理を開始する。次の電子メールが存在しない場合には（ステップS205：N）、処理を終了させて（エンド）、前記した所定の時間の到来と共にステップS201から再び処理を開始することになる。

【0045】一方、ステップS203で今回処理する電子メールにスクリプトの開始を示すスクリプト開始文が存在したり、スクリプトファイルが添付されていた場合には（Y）、スクリプトの終了を示す文が出現するまで、あるいは添付されたスクリプト文のデータが終了するまで（ステップS206：N）、そのコマンドについて図4に示したスクリプト実行手段62を該当する他の手段と連携させることで、ユーザの設定した所望の処理を実行する（ステップS207）。例えば“End Script”というテキスト文が存在した場合には、スクリプト終了文が存在すると判断される。

【0046】スクリプトに基づいた処理としては、例えばある印刷資源をネットワーク上のある場所から取得するコマンドが記述されている場合には、その印刷資源をプリンタ13が取得する処理が行われることになる。この場合には、取得した印刷資源を使用して電子メールの本文の印刷が行われる。スクリプトはコマンドの1つずつ順に処理されるので、この場合には印刷資源の取得がまず行われ、続いて電子メールの印刷が行われる。印刷結果を通知するコマンドが存在する場合には、その後、例えば印刷が終了したことを示すファイルが該当する出力先に送信されたり、用紙にプリントアウトされて出力されることになる。

【0047】このようにして該当する電子メールに記述されたスクリプトの全文が処理されたら、その電子メールの処理が終了したということでその電子メールおよび所定の場合にはその電子メールの処理のために特別に取得した印刷資源が削除される（ステップS208）。印刷資源の削除に付いては後に説明する。ステップS20

8の処理が行われたら、ステップS205に進んで、次の順番の電子メールが存在する場合には（Y）、ステップS203に戻ってその処理が開始されることになる。

【0048】図7は、受信した電子メールのスクリプトに印刷データの取得が指示されていた場合のプリンタ側の処理の流れを表わしたものである。この処理は図6のステップS207の処理の1つの具体化である。本実施例のネットワークシステムの場合、印刷データは電子メールの本文としてプリンタ13に転送する方法と、電子メールに添付書類として添付してプリンタ13に転送する方法と、スクリプトに印刷データ転送用のコマンド

（以下印刷データ転送コマンドという。）を記述した電子メールをプリンタ13側に送って、プリンタ13がこの印刷データを指定された情報源から転送取得（リトリート）する方法が存在する。CPU51（図3）は、印刷データ転送コマンドが存在するかどうかチェックする（ステップS301）。存在しない場合には（N）、印刷データを他の情報源から取得する必要がないので、そのまま今回の処理を終了させることになる（エンド）。

【0049】次のデータは本実施例における印刷データ転送コマンドの形式を示したものである。

```
"copyd [ata] hostname: filepath [printdata name] [save]"
```

ここで、括弧[]で囲った内部のデータは記載を省略することができる。なお、“copydata”とはコマンド名であり、“hostname”とは転送先のノード（たとえば第1のユーザノード12₁）（ホスト）の名前あるいはIPアドレスをいう。また、“filepath”とは転送先のノード内の印刷データのパス（ディレクトリとファイル）名をいい、“printdata name”とはプリンタ13内での印刷データの名前をいう。この印刷データの名前について省略した場合には、転送先のノードのファイルと同じ名前が付けられる。最後に“save”とは、プリンタ内部で印刷データを保持する場合のコマンドであり、これが存在しない場合には取得した印刷データは処理後に削除される。

【0050】ステップS301で印刷データ転送コマンドが存在すると判断された場合には（Y）、印刷データ名の指定があるかどうかのチェックが行われる（ステップS302）。指定がない場合には先に説明したように転送先のノードのファイル名を印刷データ名とする（ステップS303）。指定があった場合には（ステップS302：Y）、その指定した名前を印刷データ名とする（ステップS304）。次にCPU51は転送先のノードの印刷データとして指定されたファイルをプリンタ13内の印刷データファイルとしてファイル転送を行う

（ステップS305）。そして、その印刷データの処理後の対応を行うために印刷データのスクリプトに“save”というコマンドが存在するかどうかをチェックする（ステップS306）。存在する場合には（Y）、印刷

データを処理後も保持するためにこの印刷データに保持属性を付加して（ステップS307）、処理を終了する。“save”というコマンドが存在しなかった場合には（ステップS306：N）、この保持属性を印刷データに付加することなく、図3の作業用メモリ54に格納することになる。

【0051】なお、印刷データに保持属性を付加した場合で実施例のプリンタ13が磁気ディスク等の不揮発性メモリあるいは外部記憶装置を備えている場合には、この印刷データをこのような装置に格納するようにしてもよい。すなわち、保持属性の有無によって、印刷データの格納場所を変更することも可能である。

【0052】図8は、受信した電子メールのスクリプトに印刷資源の取得が指示されていた場合のプリンタ側の処理の流れを表わしたものである。この処理は図6のステップS207の処理の1つの具体化である。本実施例のネットワークシステムの場合、フォントや電子的なフォーム等の印刷資源は第1～第Nのユーザノード12、～12、である程度共通して使用する可能性のある使用頻度の比較的高いもののみをプリンタ13側で用意している。そしてこれ以外の印刷資源に付いては、その都度、ネットワーク11上で取得することにしてプリンタ13の必要なメモリ容量を低減している。

【0053】電子メールを介してネットワーク11上から印刷資源を取得する方法には、電子メールに印刷資源を別ファイルとして添付する方法と、印刷資源を転送するためのコマンド（以下印刷資源転送コマンドという。）を記述した電子メールをプリンタ13に送って、プリンタ13側でその印刷資源を転送取得（リトリブ）する方法とがある。CPU51（図3）は、印刷資源転送コマンドが存在するかどうかチェックして（ステップS401）、存在しない場合には（N）、印刷資源を他の情報源から取得する必要がないので、そのまま今回の処理を終了させることになる（エンド）。

【0054】次のデータは本実施例における印刷資源転送コマンドの形式を示したものである。

```
"copyr[esource] hostname: filepath [resource name] [save]"
```

ここで、括弧〔 〕で囲った内部のデータは記載を省略することができる。なお、“copyresource”とはコマンド名であり、“hostname”とは転送先のノード（たとえば第1のユーザノード12、）（ホスト）の名前あるいはIPアドレスをいう。また、“filepath”とは転送先のノード内の印刷資源のパス（ディレクトリとファイル）名をいい、“resourcename”とはプリンタ13内の印刷資源の名前をいう。この印刷資源の名前について省略した場合には、転送先のノードのファイルと同じ名前が付けられる。最後に“save”とは、プリンタ内部で印刷資源を保持する場合のコマンドであり、これが存在しない場合には取得した印刷資源は処理後に削除される

ことになる。

【0055】ステップS401で印刷資源転送コマンドが存在すると判断された場合には（Y）、印刷資源名の指定があるかどうかのチェックが行われる（ステップS402）。指定がない場合には先に説明したように転送先のノードのファイル名を印刷資源名とする（ステップS403）。指定があった場合には（ステップS402：Y）、その指定した名前を印刷資源名とする（ステップS404）。次にCPU51は転送先のノードの印刷資源として指定されたファイルをプリンタ13内の印刷資源ファイルとしてファイル転送を行って印刷資源として登録する（ステップS405）。そして、その印刷資源の処理後の対応を行うために印刷資源のスクリプトに“save”というコマンドが存在するかどうかをチェックする（ステップS406）。存在する場合には（Y）、印刷資源を処理後も保持するためにこの印刷資源に保持属性を付加して（ステップS407）、処理を終了する。“save”というコマンドが存在しなかった場合には（ステップS406：N）、この保持属性を印刷資源に付加しない。

【0056】なお、印刷資源に保持属性を付加した場合で実施例のプリンタ13が磁気ディスク等の不揮発性メモリあるいは外部記憶装置を備えている場合には、この印刷資源を作業用メモリ54に記憶する代わりにこのような装置に格納するようにしてもよい。すなわち、保持属性の有無によって、印刷資源の格納場所を変更することも可能である。

【0057】図9は、印刷コンフィグレーションの設定についてのプリンタ側の処理の流れを表わしたものである。この処理は図6のステップS207の処理の1つの具体化である。CPU51（図3）は、印刷コンフィグレーションを設定するためのコマンド（以下印刷コンフィグレーション設定コマンドという。）が存在するかどうかチェックして（ステップS501）、存在しない場合には（N）、そのまま今回の処理を終了させる（エンド）。

【0058】次のデータは本実施例における印刷コンフィグレーション設定コマンドの形式を示したものである。

```
"setc[onfiguration] subject parameter"
```

ここで、括弧〔 〕で囲った内部のデータは記載を省略することができる。なお、“setconfiguration”とはコマンド名であり、“subject”とは印刷コンフィグレーションの種類を選択するものである。例えば“face”とは印刷物の印刷面をレーザプリンタ17の排出トレイに上向きになるように排出することをいい、“Nup”（ただし“N”は正の整数）とは、1枚の用紙にNページ分の印刷内容をまとめて印刷することをいう。“parameter”とは、印刷コンフィグレーションの種類に設定するパラメータを指定することをいう。例えば、“simplex

／duplex”とは、片面印刷にするか両面印刷にするかを設定するパラメータであり、“1 up／2 up／4 up”とは、それぞれ1枚の用紙に1ページを印刷するか、2ページを印刷するか、あるいは4ページを印刷するかを設定するためのパラメータである。

【0059】ステップS501で印刷コンフィグレーション設定コマンドが存在した場合には(Y)、CPU51すなわち図4の印刷コンフィグレーション設定手段63がその印刷コンフィグレーション設定コマンドを解析して(ステップS502)、選択された印刷コンフィグレーションを、指定されたパラメータで設定することになる(ステップS503)。

【0060】図10は、プリンタが印刷データの印刷結果を出力する際の処理の流れを表わしたものである。この処理は図6のステップS207の処理の1つの具体化である。CPU51(図3)は、プリンタ13の印刷結果の出力を指示するコマンド(以下、印刷結果出力コマンドという。)が存在するかどうかチェックする(ステップS601)。存在しない場合には(N)、保持属性の付加されていない印刷データおよび印刷資源を該当する記憶領域から消去して(ステップS602)、処理を終了させる(エンド)。なお、電子メール自体の削除については図6のステップS204およびステップS208で規定している。

【0061】次のデータは本実施例における印刷結果出力コマンドの形式を示したものである。

“o [output] [printdata names] [resource names] [destination]”

ここで、括弧[]で囲った内部のデータは記載を省略することができる。なお、“output”とはコマンド名であり、“printdata names”とは印刷データ名あるいは印刷データ名の並びを指定するものである。これを省略した場合には、この電子メールで選られた印刷データが結果の出力の対象とされる。“resource names”とは優先して使用される印刷資源名あるいは印刷資源名の並びの指定内容である。これが省略されている場合には、この電子メールで得られた印刷資源が優先して使用され、この電子メールで与えられない印刷資源についてはプリンタ13に元々用意されている印刷資源が使用される。

【0062】“destination”とは、印刷結果の出力先である。これは次のものから選択される。

(a) “hostname: filepath”：指定先にポストスクリプト(post script)等の印刷結果をファイル転送する。

(b) “lpr [parameter]”：“lpr”というプリンタ用転送プロトコルでポストスクリプト等の印刷結果を転送する。

(c) “print”：プリンタ13の用紙にプリントアウトする。なお、“destination”の記載が省略されてい

る場合にも、同様にプリンタ13の用紙にプリントアウトされるようになっている。

【0063】図10のステップS601で印刷結果出力コマンドが存在するとされた場合には(Y)、それがプリンタ13の用紙にプリントアウトを行う指定であるかどうかの判別が行われる(ステップS603)。そうであれば(Y)、レーザプリンタ17に印刷結果に関するデータを送って、その印刷用の用紙に印刷結果をプリントアウトさせることになる(ステップS604)。

10 【0064】ステップS603でプリンタ13の用紙にプリントアウトする指定ではなかった場合には(N)、その結果をネットワーク11上にファイル転送を行う旨の指定であるかどうかを判別する(ステップS605)。そうであれば(Y)、印刷結果を本実施例ではポストスクリプト形式で作成して、指定先にファイル転送を行う(ステップS606)。そして、この後、ステップS602に進んで印刷保持属性の付いていない印刷データと印刷資源を削除して処理を終了させる(エンド)。

20 【0065】印刷結果出力コマンドがファイル転送も指定していない場合には、プリンタ用転送プロトコルで出力の指定が行われているかどうか判別される(ステップS607)。この指定が行われている場合には(Y)、本実施例の場合、印刷結果をポストスクリプト形式で作成して、プリンタ用転送プロトコルで出力する(ステップS608)。そして、この後、ステップS602に進むことになる。これに対してステップS607の処理でプリンタ用転送プロトコルによる出力の指定も行われていなかった場合には(N)、すでに説明したようにプリンタ13がその用紙に印刷結果を出力することになる(ステップS604)。

30 【0066】ところで、本実施例のネットワークシステムでは、ネットワーク11に接続された第1～第Nのユーザノード12₁～12_Nが時間的に近接させて電子メールをプリンタ13に送出しても、図6でも説明したように電子メールは一定の順序に並べられて、1つずつ順に処理される(ステップS202)。この際にプリンタ13は、図6のステップS207の処理を1つの電子メールの印刷データの処理としてスクリプトのコマンドごとに実行していくことになる。すなわち、1つの電子メールによる印刷データの処理が終了するまで次の電子メールによる印刷データの処理は行われぬ。これにより、従来の技術で指摘されたようなユーザ間あるいは印刷データ間における印刷環境の競合を完全に防止することができる。

40 【0067】また、本実施例のネットワークシステムでは、プリンタ13が各ユーザノード12₁～12_Nに共通して使用される印刷資源を予めその内部に格納しておくと共に、比較的使用頻度の少ない印刷資源についてはユーザが電子メールと共に、あるいは電子メールで取得先

を指定して印刷資源をプリンタ 1 3 内に格納し、印刷処理が終了した後に特に必要としないものについてはこれを削除することにした。したがって、プリンタ 1 3 はあらゆる場合を想定して膨大な印刷資源をその内部に用意しておく必要がなく、内部の記憶容量を比較的小規模にすることができる。もちろん、プリンタ 1 3 が電子メールを受信するたびにそのユーザの印刷資源のすべてをその電子メールを基にして用意することも可能であり、この場合にはプリンタは 1 ユーザ分あるいは 1 電子メール分の印刷資源を一時的に格納する記憶容量を用意するだけで、あらゆる形態の印刷が可能になることになる。

【0068】変形例

【0069】ところでコンピュータを使用したネットワークシステムでは、セキュリティ等の観点からシステムを管理するためのシステム管理者が配置されている。この変形例では、システム管理者が管理者権限レベルのコマンドの実行を電子メールによって送られるスクリプトの処理によって実行することで、ネットワークに接続されたプリンタ 1 3 (図 1 参照) のリモートメンテナンスを可能にするものである。ここでリモートメンテナンスとは、例えばプリントに障害が発生したプリンタ 1 3 に対して、そのプログラムを最新のものにバージョンアップするようなメンテナンス処理をいう。

【0070】図 1 は、この変形例のネットワークシステムにおけるプリンタ側の制御の内容を表わしたものである。図 1 および図 3 に示したプリンタ 1 3 は、受信した電子メールにシステム管理者としての権限を表わした権限認証コマンドが存在するかどうかをチェックする(ステップ S 7 0 1)。これは、プログラムの書き換えと言ったプリンタ 1 3 にとって重大な影響を受けるおそれのあるリモートメンテナンスを実行する適格者をチェックするためである。

【0071】ところで次のデータはこの変形例における権限認証コマンドの形式を示したものである。

“administrator password”

なお、“administrator”とはコマンド名であり、“password”は、認証用のパスワードである。プリンタ 1 3 には予めシステム管理者についての管理者権限パスワードを登録しており、これと一致したときに管理者権限モードに移行して、リモートメンテナンスを可能とするようになっている。

【0072】プログラム等を転送する場合のコマンドは次の形式で記述するようになっている。

“copy hostname: file path printer file pass”

なお、“copy”とはコマンド名であり、“hostname”は、転送元ノード(ホスト)名または IP アドレスをいう。また、“file path”とは転送元ノード内の印刷資源のパス(ディレクトリとファイル)名をいう。“printer file pass”とは、プリンタ 1 3 内のパスすな

わち転送先をいう。

【0073】リモートメンテナンスが許されるモードとしての管理者権限モードでは、システムコンフィグレーションの設定が可能である。このためのシステムコンフィグレーション設定コマンドは次の形式で記述するようになっている。

“setc[onfiguration] subject parameter”

ここで、括弧 [] で囲った内部のデータは記載を省略することができる。なお、“setconfiguration”とはコマンド名であり、“subject”とはシステムコンフィグレーションの種類を選択するためのものである。また、“parameter”とはシステムコンフィグレーションの種類に設定するパラメータを指定するものである。

【0074】図 1 に戻って説明を続ける。ステップ S 7 0 1 で権限認証コマンドが電子メール中に含まれていない場合には(N)、リモートメンテナンスを行う必要がないので、通常の電子メールの処理を行う(ステップ S 7 0 2)。この通常の処理には、先の実施例で説明したように印刷環境の設定用のスクリプトに基づく電子メールの処理が含まれる。

【0075】権限認証コマンドが電子メール中に含まれていた場合には(ステップ S 7 0 1: Y)、認証用に送られてきたパスワードがプリンタ 1 3 に登録されている管理者権限パスワードに一致するかどうかの判別が行われる(ステップ S 7 0 3)。一致していない場合には(N)、リモートメンテナンスを行うべきではないので、これを通常の電子メールとして処理し(ステップ S 7 0 2)、電子メール本文として処理すべき内容がないようなものは印刷も行わずに読み飛ばすことで処理を終了させることになる。

【0076】パスワードが管理者権限パスワードに一致していた場合には(ステップ S 7 0 3: Y)、システム管理者がネットワーク 1 1 (図 1)を利用したリモートメンテナンスを行うための管理者権限モードに移行する。この管理者権限モードでは、メンテナンスのために所定のコマンドが実行可能になる(ステップ S 7 0 4)。この管理者権限モードでは、電子メールに記述あるいは添付されたスクリプトが終了するまで(ステップ S 7 0 5: N)、管理者モードでメンテナンスのためのコマンドが実行される(ステップ S 7 0 6)。このとき、バージョンアップ等を行うプログラムを電子メールに直接添付することもできるし、そのプログラムをネットワーク 1 1 上の指定された情報源から転送取得(リトリブ)することも可能である。

【0077】スクリプトに基づいたリモートメンテナンスが終了したら(ステップ S 7 0 5: Y)、管理者権限モードが終了する(ステップ S 7 0 7)。すなわち、これよりも後の時点ではプリンタ 1 3 が通常の動作モードに復帰することになり、続行する他の電子メール等に対して通常のプリント動作を行うことになる。

【0078】なお、以上説明した実施例および変形例では、電子メールにスクリプトを直接記述するか、スクリプトファイルを電子メールに添付することにした。この代わりに、一または複数のスクリプトにそれぞれ名前を付けてプリンタ13の内部に登録しておき、電子メールでこれらのスクリプトの名前を指定することで所望のコマンド群を実行するようにすることも可能である。また、スクリプトは印刷データ内に記述することも可能である。この場合には、プリンタ13が印刷データを逐次処理する過程でスクリプトが出現したら、その時点でそのスクリプトに基づいた印刷環境の設定や、リモートメンテナ

10

ンスの実行等を行うことになる。
【0079】また、変形例ではプリンタに対してリモートメンテナンスを実行したが、これ以外の情報処理装置に対してもリモートメンテナンスを同様に行うことが可能である。すなわち、パーソナルコンピュータやワークステーション、各種サーバ等の情報処理装置に対してネットワーク11を介して電子メールを送出し、システム管理者であることとメンテナンスの内容を指示することで、これらの情報処理装置をメンテナンスすることが可能になる。

20

【0080】更に実施例および変形例ではレーザプリンタに印刷等の処理を行わせたり、リモートメンテナンスを行うようにしたが、レーザプリンタ以外の各種方式のプリンタに対しても本発明を同様に適用することができる。

【0081】

【発明の効果】以上説明したように請求項1記載の発明によれば、プリント実行用のスクリプトが電子メールでプリンタ側に送出され、プリンタ側ではこのスクリプトを抽出して実行しながらプリントを行うことで、必要な印刷環境を満たすようにしている。したがって、電子メールという簡易かつ非常に汎用的な手段を使用してネットワークに接続されたプリンタにプリントを行わせることができる。しかも電子メールの本文以外のものとしてのスクリプトを送信することで電子メールの本文と容易に区別させることができ、抽出されたスクリプトを実行することでそれぞれの印刷にもっとも適した環境を容易に実現させることができる。また、プリンタは個々の電子メールに応じてそのメールに組み込まれたスクリプトの実行で印刷環境を逐次変えていけばよいので、複数のユーザ分の印刷データや印刷資源を内部の記憶領域に格納する必要がなく、メモリの効率的な活用を図ることができる。

30

40

50

て処理することになり、しかも、これらの処理の際にスクリプトの実行が連動するので、それぞれの印刷データに確実に対応した印刷環境に設定することができる。また、電子メールを使用してプリンタの印刷環境を設定することができるので、電子メールの汎用性を考慮したとき、その価値は大きい。更に、プリンタは個々の電子メールに応じてそのメールに組み込まれたスクリプトの実行で印刷環境を逐次変えていけばよいので、複数のユーザ分の印刷データや印刷資源を内部の記憶領域に格納する必要がなく、メモリの効率的な活用を図ることができる。

【0083】また請求項3記載の発明によれば、電子メールがプリンタ側に受信されると、プリンタ側では受信した電子メールを受信順あるいは優先順位を加味した順番で一つずつ時系列で処理することになっているので、それぞれの電子メールに対応する印刷を時間的に順番を追って処理することになり、しかも、これらの処理の際にスクリプトの実行が連動するので、それぞれの印刷データに確実に対応した印刷環境に設定することができる。また、プリンタ側で幾つかの種類のスクリプトを格納しておき、電子メールで特定のスクリプトを指定するようにしているので、電子メールのデータ量を低減することができる。また、プリンタ側の機能の向上や変更が生じた場合にも、これに応じてスクリプトをプリンタ側で変更しておけば、プリンタを使用するユーザ側は具体的なスクリプトを意識することなく、プリンタの使用環境を設定することが可能になる。

【0084】更に請求項4記載の発明によれば、電子メールがプリンタ側に受信されると、プリンタ側では受信した電子メールを受信順あるいは優先順位を加味した順番で一つずつ時系列で処理することにしたので、それぞれの電子メールに対応する印刷を時間的に順番を追って処理することになり、しかも、これらの処理の際にスクリプトの実行が連動するので、それぞれの印刷データに確実に対応した印刷環境に設定することができる。また、選択した電子メールにプリンタのメンテナンスを行うためのスクリプトが存在する場合にはこれを抽出し、更にその電子メールの送信者がメンテナンスの権限を有する者であるかどうかをチェックすることにしたので、メンテナンスの権限を有する者によってリモートメンテナンスを実現させることができ、メンテナンスを容易かつ迅速に行うことができる。

【0085】また請求項5記載の発明によれば、プリンタのメンテナンスについては請求項4記載の発明と同様の効果を得ることができる他、プリンタ以外の情報処理装置、例えばワークステーションやパーソナルコンピュータ、ワードプロセッサ、各種サーバ等のメンテナンスを容易かつ迅速に行うことができるという効果がある。しかも、電子メールを利用してこれを行うので、メンテナンスを行うシステム管理者は、ネットワークのどの位

置からでも、またどのような通信機器を使用してもリモートメンテナンスを行うことができる。

【0086】更に請求項6記載の発明では、請求項1～請求項3記載のプリンタでスクリプト実行手段は、スクリプトに取得すべき印刷資源の所在が記述されているときその印刷資源を取得してプリントを実行するようにしているので、電子メールで送信するデータ量を大幅に低減させることができる。

【0087】また請求項7記載の発明では、請求項1～請求項3記載のプリンタでスクリプト実行手段は、スクリプトに印刷のための設定に関する情報が記述されているときその設定を行ってプリントを実行することになっているので、電子メールを使用していわゆる印刷コンフィグレーションを設定することでネットワーク上のどの位置からでも印刷のための各種設定を簡易に行うことができる。

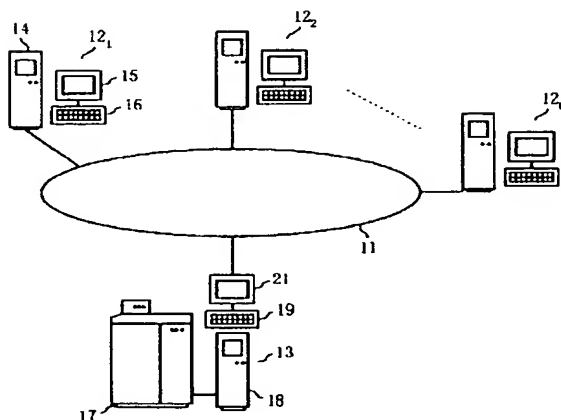
【0088】更に請求項8記載の発明によれば、リモートメンテナンスを行う際の管理者の権限レベルの確認を、自装置に予め記憶しておいたパスワードと電子メールで送られてきたパスワードを比較することで実現するようにしているので、権限を有しないものによってメンテナンスが行われる危険を防止することができるだけでなく、電子メールを使用してネットワーク上のどの位置からもパスワードを入力することで情報処理装置のメンテナンスを迅速に行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の一実施例におけるプリンタを使用したネットワークシステムの概略の構成を表わした概略構成図である。

【図2】 本実施例における第1のユーザノードの構成*30

【図1】



*を表わしたブロック図である。

【図3】 本実施例におけるプリンタの構成の概要を表わしたブロック図である。

【図4】 本実施例におけるプリンタの機能的な構成を表わしたブロック図である。

【図5】 ユーザノードからプリンタに電子メールを送出する処理手順を表わした流れ図である。

【図6】 受信した電子メールに対するプリンタ側の処理の流れを表わした流れ図である。

10 【図7】 受信した電子メールのスクリプトに印刷データの取得が指示されていた場合のプリンタ側の処理の流れを表わした流れ図である。

【図8】 受信した電子メールのスクリプトに印刷資源の取得が指示されていた場合のプリンタ側の処理の流れを表わした流れ図である。

【図9】 印刷コンフィグレーションの設定についてのプリンタ側の処理の流れを表わした流れ図である。

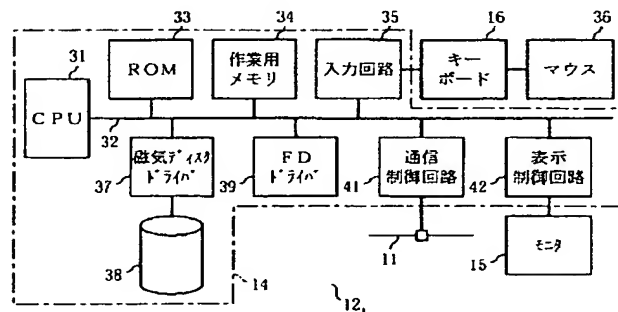
【図10】 プリンタが印刷データの印刷結果を出力する際の処理の流れを表わした流れ図である。

20 【図11】 変形例のネットワークシステムにおけるプリンタ側の制御の内容を表わした流れ図である。

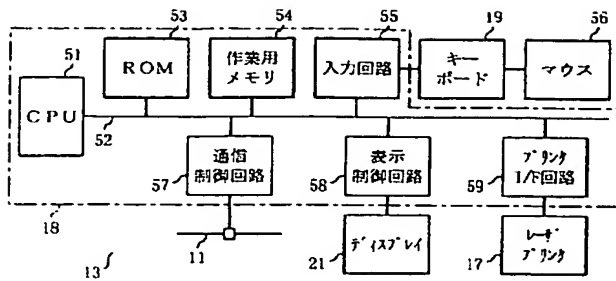
【符号の説明】

11…ネットワーク、12…ユーザノード、13…プリンタ、17…レーザプリンタ、31、51…CPU、33、53…ROM、34、54…作業用メモリ、38…磁気ディスク、41、57…通信制御回路、61…電子メール送信手段、62…スクリプト実行手段、63…印刷コンフィグレーション設定手段、65…印刷資源取得手段、66…印刷データ取得手段

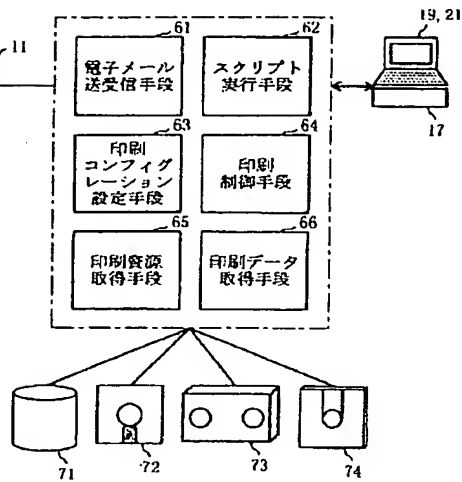
【図2】



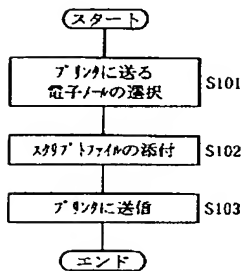
【図3】



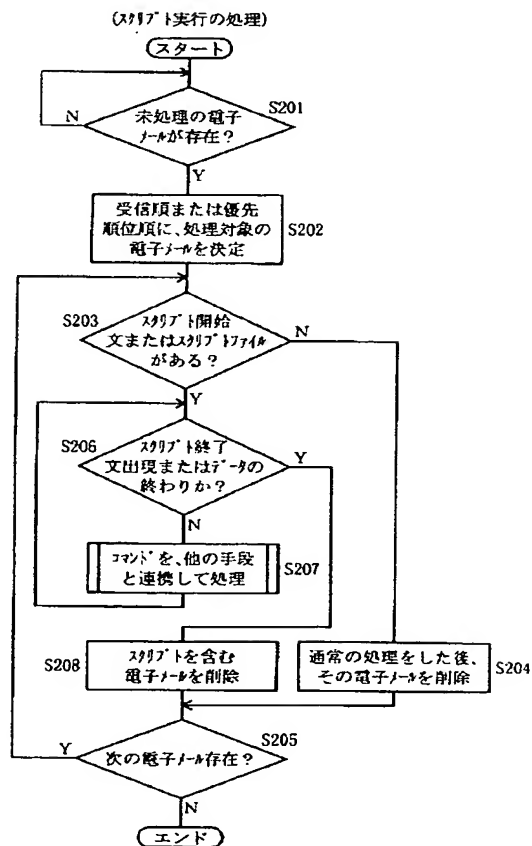
【図4】



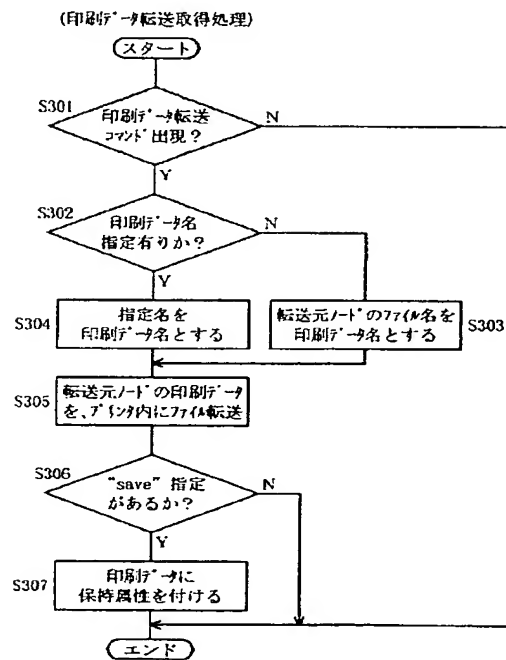
【図5】



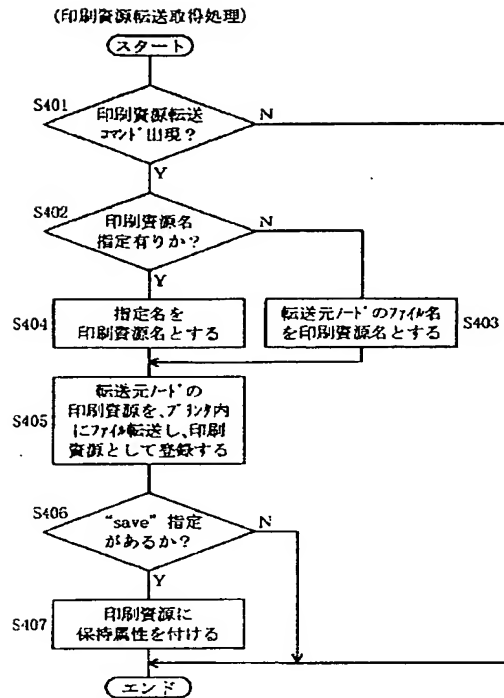
【図6】



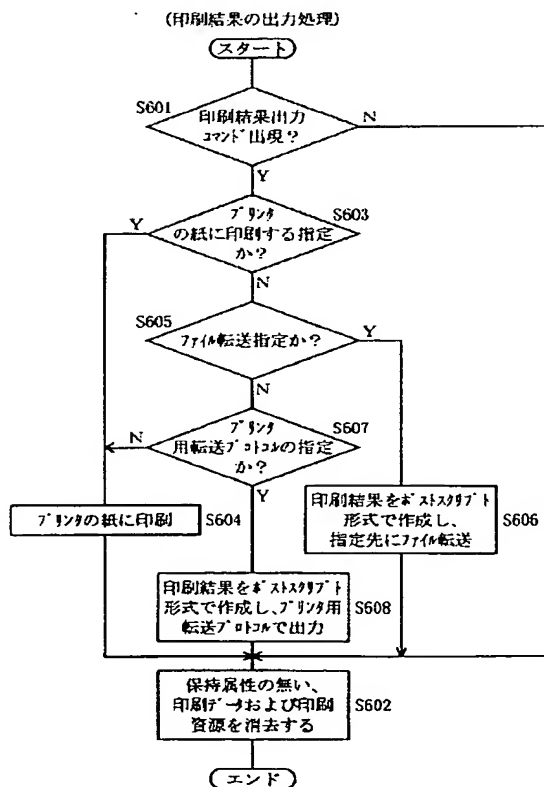
【図7】



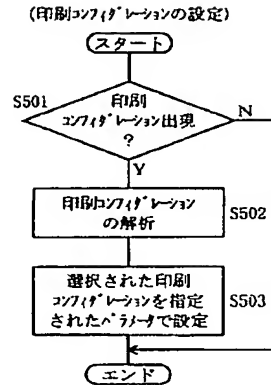
【図8】



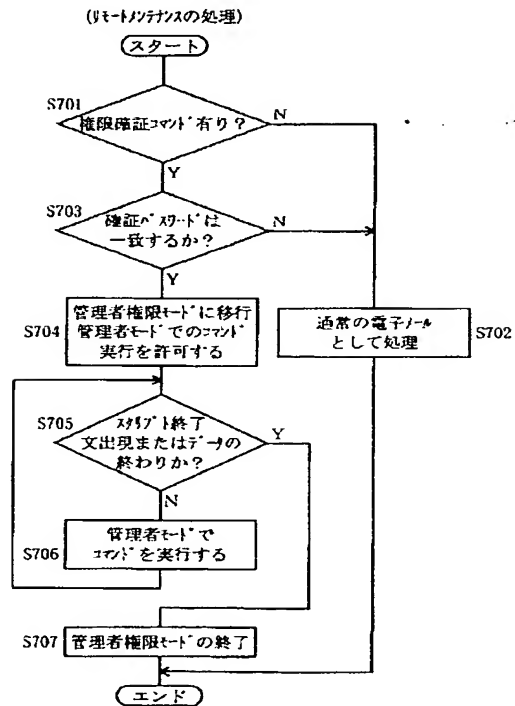
【図10】



【図9】



【図11】



フロントページの続き

(51)Int.Cl.⁶

識別記号

F I

H 0 4 L 12/58

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ **BLACK BORDERS**
- ☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☐ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.